



平成20年9月18日(木)		資料配付	
所属	担当	担当者氏名	電話番号
水産課	水産担当	武藤 義範	内線2893
河川環境研究所	資源増殖部	三浦 航	0586-89-6352

コイヘルペスウイルス（KHV）病の検査結果について（65報）

県内におけるKHV病の発生については、平成15年11月19日の初確認以来、これまでに64回にわたって記者発表を行ってきたところですが、今回、新たにKHV病の発生が確認されましたので、その概要について次のとおり報告いたします。

1 検体の種類及び検査結果

- 平成20年9月8日に、恵那市内の個人池において死亡した錦鯉1尾からKHV検査用サンプルを採取。また同日、安八郡安八町内の農業用排水路内で死亡していたマゴイ3尾からKHV検査用サンプルを採取。これら計4検体について県河川環境研究所で一次診断を実施したところ、恵那市内の個人池で採取した1検体がKHV陽性、安八郡安八町内の農業用排水路内で採取した3検体がKHV陰性と診断されました。
- 陽性と診断された1検体について、(独)水産総合研究センター養殖研究所へ確定診断を依頼したところ、9月18日、KHV陽性と診断されました。

検体の区分	採取日	検体の状態	一次診断【河川環境研究所】			確定診断【養殖研究所】	
			陽性	疑陽性	陰性	確定診断依頼検体数	(陽性数/検体数)
個人池 (恵那市)	9/8	死亡魚1尾 (錦鯉)	1	0	0	1	1/1
農業用排水路 (安八町)	9/8	死亡魚3尾 (マゴイ)	0	0	3	—	—

【分析法】ポリメラーゼ連鎖反応法（PCR）：病原体の特異的遺伝子を検出する方法

2 陽性と診断されたコイの状況等

- 当該個人池ではこれまで錦鯉25尾を飼育していましたが、8月中旬からコイが死亡するようになり、9月8日までに20尾が死亡。
- 当該個人池ではしばしば錦鯉を購入していたとのことですが、直近では今年4月初旬に県内養殖場から錦鯉1尾を購入しております。しかし、KHV病の潜伏期間は2週間程度と言われており、購入魚からKHVに感染した可能性は低いと思われます。

- ・当該個人池は、近くを流れる用水路から飼育水を引いており、周辺の民家でもコイの死亡があり、用水路を介して感染した可能性があります。

3 これまでの県内でのKHV発生状況等

- (1) 平成15年11月19日以降、今回の発表までの間に延べ307所、815尾の検査を実施しました。その結果は、次のとおりです。

区分	調査箇所数 (うち陽性箇所数)	調査尾数 (うち陽性尾数)
養殖場	30 (5)	154 (8)
釣り堀	6 (4)	19 (12)
河川	55 (32)	110 (66)
ため池	8 (4)	33 (21)
野池	1 (1)	2 (2)
水路	18 (12)	37 (17)
公園池	13 (4)	29 (7)
学校池	2 (0)	3 (0)
個人池	165 (93)	408 (163)
事業所・事務所池	4 (2)	10 (5)
その他	5 (3)	10 (5)
計	307 (160)	815 (306)

- (2) これまでに28市町村管内で発生が確認されています。

岐阜市、大垣市、高山市、関市、中津川市、美濃市、瑞浪市、羽島市、恵那市、美濃加茂市、土岐市、各務原市、可児市、山県市、瑞穂市、飛騨市、本巣市、郡上市、下呂市、海津市、養老町、垂井町、輪之内町、揖斐川町、池田町、川辺町、白川町、東白川村

4 対策

- ・KHV病の発生が確認された池については、所有者に対して死亡したコイの適正な処分と、池から生体のままコイを持ち出さないよう要請しました。
- ・用水路を介してKHV感染が拡大した可能性が高いため、恵那市を通じて、用水路周辺住民に対して、飼育するコイの移動の自粛と、コイが死亡した場合の通報について呼び掛けております。

5 その他

- (1) 農林水産省消費・安全局のコイヘルペスウイルス病に関する見解は次のとおりです。
- ・コイヘルペスウイルス病は、コイ及び錦鯉以外の魚には感染しません。
 - ・人に感染することはなく、仮に感染したコイを食べても人体には影響はありません。
- (2) 異常なコイを見つけた場合には、最寄りの市町村又は県農政部水産課へ連絡をお願いします。
- ※ 農政部水産課水産担当 TEL 058-272-8455